

## (特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和7年度 徳島県立ひのみね支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立ひのみね支援学校 校長 森本 裕美

## 1 学力向上検討委員会構成

学力向上検討委員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本裕美 藤本洋美 吉本佑司
学力向上推進員	教務課長	豊田 尚子
委員	各学部長 主幹教諭 指導教諭・研究課長 人権進路課長 教務主任	福原薰 宮本洋子 谷口夏紀 森浩一 山田千代 二宮智子 片寄恭代 高木奈緒子

## 2 学力・学習状況における現状分析、目標等

## 【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(中学校部) 幼児児童生徒の状況		
よさ	具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標
	これまでの学びや経験等により習得した動作、人と関わる力等を活かして、意欲的に活動できる。保護者や関係機関等の支援を受けて、健康に留意し活動に取り組んでいる。	活動や経験が制限されたり、支援を受ける経験が多く、受け身になりがちだったりする。人や物への興味・関心を広げ、関わる中で、主体的に生活する力をつけたい。  課題
	様々な感覚を活用したり、地域の方等と関わりする体験活動を通して、主体的・意欲的に物や人と関わろうとする。	個々の生徒に設定した目標で「十分達した」「達した」という評価が80%以上となる。  評価
具体的方策(教員の取組)		取組状況
①個々の生徒の実態に応じて、様々な感覚等を活用する活動、興味・関心の広がりを期待できる実験、また他学部の児童生徒や教員、地域の方と関わることのできる活動を計画する。  ②「総合的な学習の時間」の目標等の共通理解を図る。		①様々な感覚を活用できる体験活動を行う。 ②地域の人材を講師として招聘した出前授業を2回以上行う。 ③「総合的な学習の時間」の個々の生徒の目標を作成し、評価する。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		